

授業評価アンケート結果(2009 秋)

担当者：杉本憲彦

科目名：物理学 II(実験を含む)「気象の物理」

実施時期：秋学期最終講義日

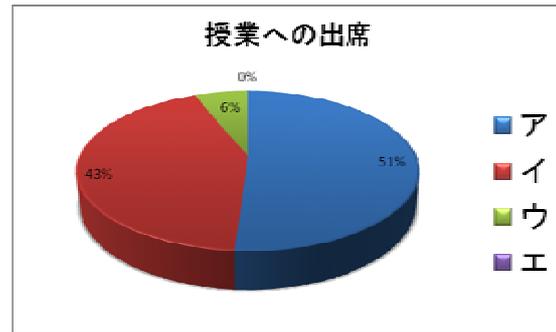
科目設置：日吉

履修者数：111 名

回収数：98 名

1. 授業への出席

ア 全部出席した	50 人
イ ほとんど出席した(80%程度)	42 人
ウ あまり出席しなかった(50%程度)	6 人
エ ほとんど出席しなかった	0 人



2. 授業について

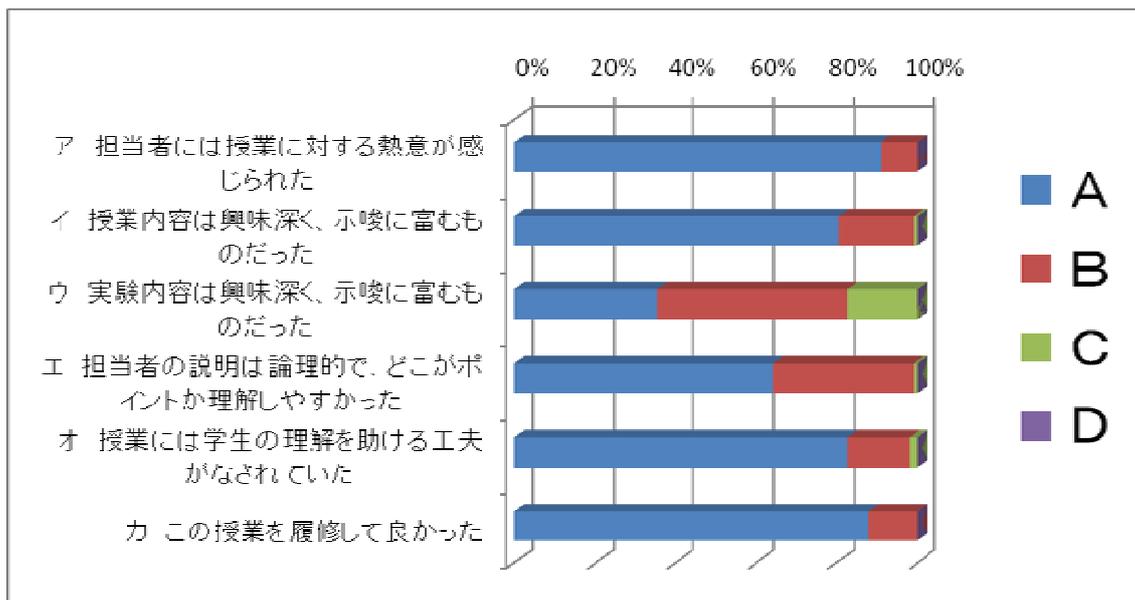
A = そう思う

B = どちらかといえばそう思う

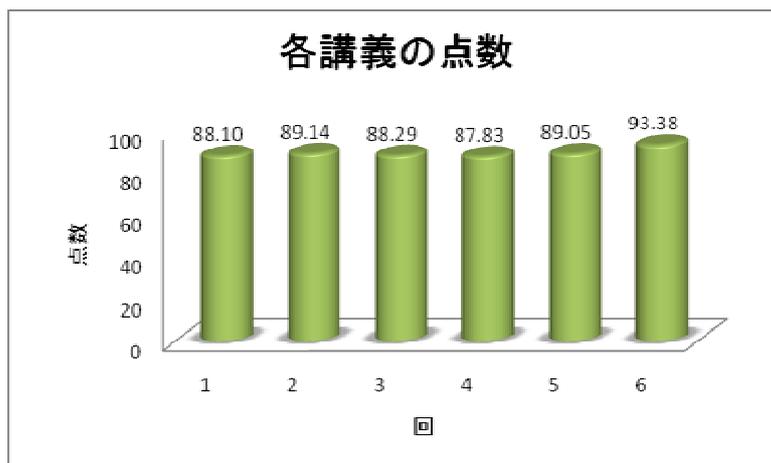
C = どちらかといえばそう思わない

D = そう思わない

	A	B	C	D
ア 担当者には授業に対する熱意が感じられた	89	9	0	0
イ 授業内容は興味深く、示唆に富むものだった	79	18	1	0
ウ 実験内容は興味深く、示唆に富むものだった	35	46	17	0
エ 担当者の説明は論理的で、どこがポイントか理解しやすかった	63	34	1	0
オ 授業には学生の理解を助ける工夫がなされていた	81	15	2	0
カ この授業を履修して良かった	86	12	0	0



3. 各回の講義内容について(100点満点)	平均点
第1回「大気の成り立ち」 地球の気温はどうやって決まる？	88.1
第2回「地球規模の流れ」 西風に流される低気圧のしくみ	89.1
第3回「雲と降水」 雲が浮かび、雨が降る理由	88.3
第4回「気象よもやま話」 日々の天気の世界裏	87.8
第5回「明日の天気」 天気予報の限界とカオス	89.1
第6回「気候の変動」 地球温暖化と現代物理学	93.4



4. 自由記述(代表的なもの)

- 気象は興味深く、物理っぽくなくてよかった(9人)、新しい発見がたくさんあった
- 内容も先生も面白くて楽しかった(7人)、来年もこのスタイルでいい
- 身近な現象を物理学的視点で説明してもらえた(7人)、先生の説明がよい
- アニメーションや図、映像、画像がわかりやすかった(6人)、イメージがわいた
- 旬の温暖化の話題を多く取り上げていて、とても興味深い
- 学生の立場を理解して、わかりやすい講義をしようと試みられていました
- 100点満点でないのは、さらなる質の向上を目指してほしいから(2人)。満点と同等熱意は伝わった。感想や考察を書く時間がもう少しほしい
- スライドの切り替えが時々早く写せないこともあったが(2人)、全体的に面白かった
- 相対性理論とクオーク、宇宙の進化、狭い分野を奥深く(各1人)扱ってほしい
- 気候と変動で相対論をするとつながりが薄い、関係式をもう少し入れてほしい。

5. 講評

昨年度や前期同様、講義全般に関して、概ね好評であった。特に、地球温暖化の講義は刺激になったようだ。一方、実験の評価は前期と比べてさらに低い。後期の実験は現代物理学を扱う内容が多いため、実験と講義の間に分野の隔りがある。次年度以降、新たな実験開発を行うとともに、講義と実験の関連性により配慮したい。受講者にとって、気象や地球環境を少しでも考える機会になってくれたらと思う。